

御坂山塊北側にある静かな山稜を歩く
春日山

実施日	2014年3月22日(土)
天候	快晴
リーダー	涌井 良明
参加者	佐藤金治、涌井良明、山崎富美恵、渋谷京子、中村友子、伊藤久雄 計6名
費用	🚗 4,200円(石和温泉駅起算)
タイム	石和温泉(8:30🚗)鳥坂トンネル(9:05~9:10)旧トンネル登山口(9:15~9:25アイゼン着)鳥坂峠(9:35~9:40)春日沢の頭(10:30~10:45)春日山(11:10~11:45昼食)春日山最高点(名所山・トヤンハチ)(12:25~12:30)両面檜・林道鶯宿峠(13:40~13:45)芦川支所役場(15:00~10🚗)石和温泉(15:50)
データ	積算距離 10.44km 移動平均速度 2.8km/h 総上昇量 546m 行動時間 5時間50分

往路、勝沼付近の車中から、屏風のように真っ白な南アルプスの峰がクッキリ、今日は何という好天に巡り合ったのかと思えるようで山での展望に期待してしまう。

石和温泉からタクシーで芦川へ向かう、山間部にはまだ多くの残雪が見られる。



鳥坂トンネルを抜けた旧道ゲートが登山道への入口である。ゲートから数分で旧トンネル近くの

登り口になる。北向きの雪道は降雪後のトレースは見られないようだ。ここでアイゼンを着けて登り始める、雪に覆われた道型は分かりずら

いが上の稜線を目指して登る。登り着いた尾根が鳥坂峠で左は春日山、右へは釈迦ヶ岳から御坂黒岳へと続くと導標が示していた。(機会を作ってぜひ歩いてみたい)

峠から左へ春日山に向かう、尾根上は雪も少なくなりほどなくアイゼンを脱ぐ。尾根上を忠実に小さく登降を繰り返して行くが、弱い北の風ではあるが冷たく感じられあまり汗もかかない。



木の間から白い八ヶ岳をチラチラ見つつ小ピークをいくつか越して春日沢ノ頭に登り着く、今

回一番の展望台でもある。

4本のアンテナが立ったピークは、北から西にかけて大きく開けており奥秩父、八ヶ岳、南アの展望、更に甲府市街も一望できる絶景ポイントだ。

峰々の白と青空のコントラストが素晴らしい、この時期におそらく数日しか見られないであろうの絶景の眺望美を堪能する。



ここで別ルートから登ってきた男女2人がこの日出会った唯一の登山者だった。

存分に展望を楽しんで、南に春日山に向かう。直ぐ下りになり、更に一気の急下降で折角の今迄のアルバ



イト分をすっかり吐き出してしまおうのはと思うほどだ、下り切って小峠(芦川峠)

でそこからは再び登りになる。

登り切ると割と新しいアンテナ(中継局かも)の立つ春日山に着く。

ここも春日沢ノ頭ほどではないが展望は良い。少し離れた樹林に春日山(山梨百名山)の標柱があった。アンテナ脇の陽だまり



で昼食、風も遮られポカポカの春山ランチ、後半へのエネルギー補給である。

さて後半、証拠の写真を撮って春日山最高点(名所山)へ向かう。対面に見える白い山肌に向かって下り、林道の黒坂峠に下り立つ。辺りはまだ雪に覆われており登り口階段も雪に埋まりかけ、先に続く急斜面の雪面も固く締まっている。



アイゼン無しでは登れそうもないので此処で再びアイゼンを装着する。

いきなりの急な雪面を登り、尾根に出て右へ真っすぐの急登になる、尾根上は防火帯になっているため広く、雪も積り易いのだろう、豊富な残雪で完全な雪山、しかもかなりの急登。滑り落ちたら登り口まで一直線に戻ってしまいそうな雪の尾根をゆっくりと慎重に登る。やがて傾斜が緩くなると、春日山最高点(名所山)と銘板のある山頂に着いた。

小休止後、ほぼ直角に右へ続く防火帯の尾根を辿るが、ここも真っすぐに急傾斜の雪面の下



りである。

下り切って緩く登り返して進むと朽ちかけて読めない銘板が残る小広い1171mに出る。ここは右に大窪への道が分かれている。



我々は左へ新倉峠へ進む、この先は道型も薄くなり小枝もうるさい道になる、緑の季節には藪山に近い雰囲気だろう。登降はそれ程ないが踏跡を捨うのに多少気をつかうことになる。

しばらくで堀割り或は切通しが横切っているような箇所へ出る、ここが新倉峠で底まで降りて踏跡を対面へ登り直す。

更に薄い道型を追って行くと、右に林道に合流して両面檜(ナンジャモンジャ



の木)のある鶯宿峠に出た。立派な大木で説明板も立っている。此処から南へ下るつもりだったが林道に

引かれてやや遠回りをしたが、大雪の名残りの残雪、雪崩に伴う落石や倒木その他で荒れた林道を下り、更に県道を芦川役場まで歩き、往路に予約したタクシーで石和温泉駅へ。

駅前でゴージャスな反省会もできて、おまけは優雅に特急列車で帰路となった。

快晴とパノラマの超展望、とっても静かな雪山歩きと、思いの他好印象の山行になったのはうれしかった。参加してくれた皆さんに感謝です。結構面白かったでしょ。

イヤーッ 山歩きってオモシロイ!?
(記&写真・涌井 良明)

(写真提供・伊藤久雄)